

グローバル COE 特別セミナー

機能生物学セミナー

演者： 北岡 明佳 教授

[所属 立命館大学 文学部 人文学科 心理学専攻]

演題： 『錯視と脳』

日時：平成20年2月18日 (月)

14:30-16:00

場所：医学部教育研究棟 13階第6セミナー室

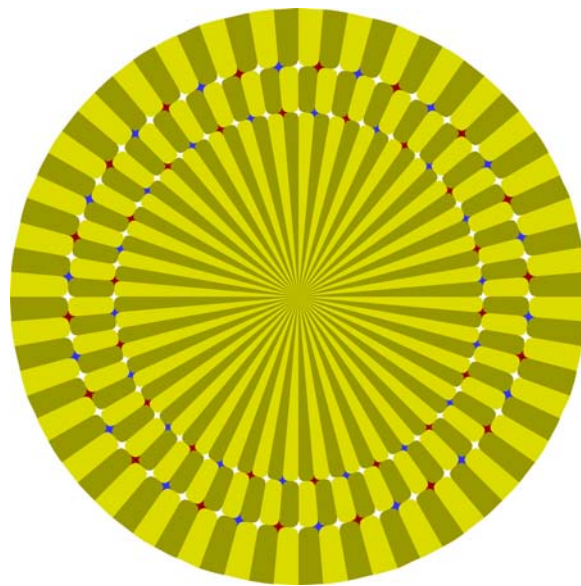


Figure 「神経回路」

※中心を見ながら目を近づけたり遠ざけたりすると環状の星の配列がお互いの反対方向に回転して見えます。

Abstract :

視覚性の錯覚を錯視 (visual illusion) という。錯覚とは、「実在する対象の真の性質とは異なる知覚」のことなので、その定義に哲学的な議論の余地を残した概念であるが、実際の錯視の研究は、実験心理学的な方法で行うことが一般的である。実は、錯視研究の歴史を通じて、知覚には形・色・明るさ・動き・奥行きといった次元があり、さらには形にも大きさ・傾き・位置の次元があって、それらは独立であるということが繰り返し主張されてきたが、今や神経生理学の進歩によって、大脳皮質が機能的なモジュール構造をしていることは常識となった。錯視の統一理論という考え方には昔から人気があって、いろいろな研究者が (錯視の範囲の取り方は変動しつつも) 錯視の統一的理論を提唱するのであるが、それは脳のことを考えれば、錯視を起こす特定の脳部位があるということを想定することになる。意識の座ならぬ錯視の座である。私はそれぞれの錯視はそれぞれの感覚モジュール内で個別に起こると考えているので統一理論の夢は追わないが、個々の錯視が脳のどこで起こるかということには興味がある。現在、「蛇の回転」という静止画が動いて見える錯視を見ている時の脳活動を fMRI で調べる研究を行なっている。錯視に応答すると考えられる信号は微弱ではあるが認められるので、この話題も紹介したい。